

少年・学童（女子含む）軟式野球大会応援ガイドライン

2025 年

一般社団法人 北海道軟式野球連盟

<応援について>

- 1 応援については監督が責任を持つこと。
- 2 応援は、
 - (1) マナーを守ること。
大声の声援、得点時などに一カ所に集まって盛り上がる行為などを控える。
 - (2) 応援はあくまで自チームの応援であって、野次など相手チームや選手が不快な思いをいただくような言動は禁止する。
 - (3) 太鼓やホイッスル等やブラスバンドの応援は認めない。
自チームが守備側の時は、座っていることが望ましい。
 - (4) チームの応援旗は、グラウンドの内側ではなく外側で掲示（張る）こと。
 - (5) 紙吹雪・紙テープ・個人名を書いたのぼりを使うことは控えること。
 - (6) 応援席を散らかさず、ごみは持ち帰り、美化に心がける。
 - (7) 試合を妨害するような応援はしない。
 - (8) 拡声器や、スマホなどの音響機器類の使用は禁止する。
 - (9) 投手が投手板に触れて投球位置についたら、投手の動揺を誘うような行為をしないこと。
 - (10) ベンチ内の大人がいかなる状況であっても、選手を委縮させるような言動を禁止する
- 3 常にマナーを遵守し、スポーツを愛好する者としての節度のある応援に努めること。

次ページには今年から競技者必携 2025 の 7 ページに掲載された「野球にはヤジは必要ありません」のヤジ撲滅運動及び 8 ページの「マナーを守った節度ある応援について」内容ですので、ご確認ください。

【マナーを守った節度ある応援について】

マナーを守った節度ある応援については、チーム代表者の責任において統制をお願いする。応援は自チーム全体を励ますのがマナーであることに留意し、対戦相手チームの投手や選手の投手や選手にことさらプレッシャーをかけるような応援は慎む。

また、懸命なプレイや素晴らしいプレイには、自チーム、相手チームに関係なく、大きな称賛を送る。応援や演奏が始始できるのは「プレイ」以降であり、鳴り物を使っての応援は自チームの攻撃時のみとする。応援や演奏の開始は各イニングの先頭打者がアナウンスされてから、もしくは「プレイ」が宣告されてからとし、3アウトになった時点で応援や演奏をやめる。

① 試合前のシートノック時やスターティングメンバーのアナウンス時には、太鼓の使用や声援を控える（拍手は可）。

② イニング間は一切の応援をやめ、守備側は座ったまま、拍手のみで応援する。試合が中断（球審の場内放送や選手のケガなど）した場合、応援や演奏は直ちに中止する。

③ 試合途中のグラウンド整備中は、応援や演奏を中止して水分補給や休息に充てる。

※ なお、鳴り物の使用を制限している球場では使用できない。

野球にヤジは必要ありません

【ヤジ撲滅運動展開中】

- ★ 大人から子どもまで、ヤジの無いフリーな軟式野球界を目指しましょう。
- ★ 軟式野球の選手・チーム・審判・大会関係者はみな仲間です。

“みんなでヤジやめよう ヤジカッコ悪〜い!”

「尊重・勇気・覚悟」を持って取り組みます

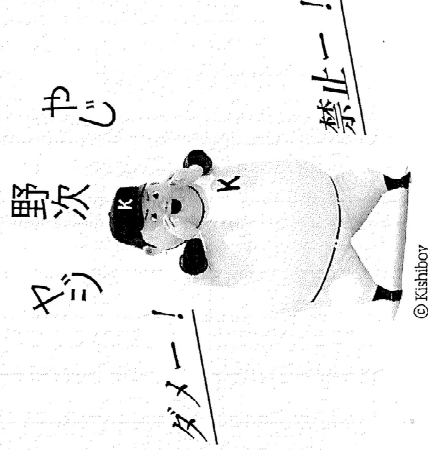
『 尊重 「プレーヤー（対戦相手／仲間）」「ルール」「審判」を大切に思う気持ちのこと。さまざまな立場や多様性を理解し許容し、つねにフェアに行動することが大切です。』

『 勇気 勇気とは、困難や危険を恐れない気持ちのこと。自らよく考え、責任をもって決断し、実践するチャレンジ精神を大切にしましょう。』

『 覚悟 覚悟とは、勝利をめざして全力を尽くす気持ちのこと。困難や苦しみを受け入れ、あきらめずにゆしめ抜くことが大切です。』

＊（一社）日本スポーツマンシップ協会

スポーツマンシップの基礎知識ハンドブックより一部抜粋



スポーツマンシップの
啓発動画

